



《発行所》
青山同窓会

〒951-8127 新潟市関屋下川原町2-635
新潟県立新潟高等学校内
TEL 025-266-5268
FAX 025-266-5268

《編集、発行人》

上村光司

《印刷所》

オリオン印刷 ㈱

〒950-0963 新潟市南出来島1-19-1
TEL 025-283-2151
FAX 025-283-3804

ごあいさつ

青山同窓会会長 50回 上村光司



皆様いかがお過ごしでしょうか。仕事に昼夜のない方には良い成果を、悠々自適の方には好日の続くことを、病を抱いておいでの方にはご本復の早いことをお祈りします。

さて、二月末に完成した母校々舎の中で、視聴覚教室というのが特に喜ばれているようです。教室というより、広いステージと後方がせり上がった四百座席の小劇場というべきで、これまでの学校の感覚を一つ抜けた快適さ。県下初という触れ込みです。

ところがそのステージに幕がない。県は予算を付けてくれないので、一部前倒しで支出して

かった。開けっ広げのままでは何とも使えずらく、落ち着かないもので、学校側の希望もあって綴帳(どんちよう)を、百十周年事業の一部前倒しとして備えることにしました。豪華けんらんというには程遠いものですが、約三百八十万円の見込みであります。「青山同窓会」の名前が入りますから、在校生諸君に同窓会の存在を感じてもらおう効用はありそうです。

◇

新校舎竣工および創立百十周年記念事業の考え方については、これまでご説明して来たとおりで、四月にその実行委員会を立ち上げました。九日の総会で事業計画の決定をいただいたあと、募金活動に入ります。ただ校舎の建築が先へ先へと進むため、佛作って魂入れずにならぬよう、一部前倒しで支出して

五百万円低くなりますが、時節がら重い金額であることは変わりません。また前回から十年近く経過する中で、会員それぞれの状況にも変化があるでしょう。それやこれや、各期会員のライフ・サイクルや、前回の実績を考えた結果、今回も四十歳台後半から六十歳台に比重がかかることをお祈り願います。各期幹事の皆様には、また格段のご尽力をお願いすることにします。大先輩から若年まで、全会員のご協力を切望してまいります。

募金について補足しますと、予算総額三千万円、うち二千五百万円をわが同窓各位から、五百万円をPTA各位からご奮発願いたい。百周年事業では同窓会の目標は三千万円でしたから、

東京青山同窓会は

元気の源

84回 島津 孝

今年の新人歓迎講演会の会場は、昨年の屋台村とはがらりと変わり山手線の真中、ホテルニューオータニ。

入り口から迷路の様なホテルの中を百m以上も歩き、会場の折り鶴の間へ、例年と違う会場が雰囲気を感じた戸惑いも懐かしい人々との再会に、いつもの和やかな空気へと変わっていき

ました。エベレスト登山の石黒久先輩(73回)の講演「元気をだせ青



なく、学生諸君とのメールアドレスの交換と、ネットワークの普及を実感しました。

懇親会は富所強哉先輩(46回)の旧制校歌菊池隆先輩(74回)の新人を引き連れたの新制校歌から応援歌「丈夫」でピークを迎え、最後に富所先輩の凱旋歌でお開きとなり、テンションの上があったまま二次会に突入！栗林会長以下、用意した席に入りきれないほどの出席があり大いに盛り上がりました。その後も栗林会長以下数十名が三次会まで付き合っていた楽しい時間を過ごしました。

この同窓会が元気の源になっているのは、私だけではないと思います。また秋の総会が楽しみです。

山健児」ではエベレスト登山の苦労話、頂上で日の丸の旗を飛ばしてしまい、朝日新聞のトップを飾った写真の旗は、大成建設の社旗であったとの裏話もさることながら、良き仲間との出会い、チームワークの大切さ、一緒に行った仲間たちの思いに後押しされたの登頂であったことを熱く語ってくださいました。そして今、その時世話になったネパールに発電所建設で恩返しができるうれしさと、聞いていても男冥利につぎる話に、胸が熱くなり私のみならず、出席者一同、自分も頑張らねばと励まされました。

さて講演会が終わり、懇親会は新旧入り乱れてのバトルロイヤル、今年の名刺の交換だけで



11年度 東京青山同窓会 講演会 歓迎会

校舎竣工及び創立百十周年記念事業について

ました。同窓会の募金につきましては、今年の総会において、はかり、ご賛同を得てから始めるという段取りですが、是非ご承認いただきたく、お願い申し上げます。

記念事業概要(案)

第一アリーナ及び視聴覚教室
式幕、柔道畳、トレーニング器具一式、コンコース床マット、校地内植栽 等

二、青山同窓会名簿出版
三、記念行事

記念式典、祝賀会 等
予算概要(案)

収入の部 三、〇〇〇万円
(募金目標)

支出の部 二、五〇〇万円
環境整備事業 二、〇〇〇万円
記念行事 事務費 予備費 一、〇〇〇万円

会長挨拶のように、母校校舎全面改築の完成は、平成十三年の秋です。明治二十五年の創立以来、幾多の変遷を経て四代目となる新校舎が完成するこの年は、創立百十九年目にあたります。そこで落成を機に、同春秋に校舎竣工と創立百十周年とを併せ記念事業を行うため、青山同窓会、PTA、学校ともに相携えて「校舎竣工及び創立百十周年記念実行委員会」を発足させ、左記のような記念事業を計画し

新潟高等学校校舎竣工及び創立百十周年記念事業実行委員会組織図(案) (同窓会関係者)

会 長	上 村 光 司	50
常 任 委 員	厚 地 林 武 亨	51
	小 敦 井 栄 一	69
	早 上 福 卓 之	55
	石 田 雅 穂	60
	北 村 瑞 穂	67
総務部総務係	◎ 小 村 泰 一	68
庶務係	小 崎 弘 一	73
会計係	小 林 直 一	78
事業部募金係	◎ 石 本 隆 太	69
/"	福 田 実 正	75
施設係	熊 木 徳 実	76
名簿係	栗 原 道 平	82
行事部式典係	◎ 山 内 幹 夫	71
祝宴係	白 井 行 雄	79
演奏・講演係	小 島 富 美	75
	瀬 賀 孝 子	77

◎部長
この委員会は、同窓会、PTA、学校の三者合同で構成されます。

募金各期目標額 1口5,000円 なるべく多数口お願いいたします

期 別	目標(円)	期 別	目標(円)	期 別	目標(円)	期 別	目標(円)
~37	50	54	40	71	60	88	40
38	10	55	40	72	60	89	30
39	10	56	40	73	60	90	30
40	10	57	40	74	60	91	30
41	15	58	40	75	60	92	30
42	15	59	40	76	60	93	20
43	15	60	50	77	60	94	20
44	20	61	50	78	60	95	20
45	25	62	50	79	60	96	10
46	35	63	50	80	55	97	10
47	35	64	50	81	55	98	10
48	35	65	50	82	55	99	10
49	40	66	50	83	50	100	10
50	40	67	60	84	50	101	10
51	40	68	60	85	50	102~	20
52	40	69	60	86	40	通信	30
53	40	70	60	87	40	通計	2,500

追 悼

故清野氏を偲びて

36回 石橋健男



この度、前会長清野氏の逝去に、又一人懐かしい球友を失い寂寥の感を深く感じて居ります。故人は享年九十才と云う事のように、小生は八十九才です。然し卒業は小生が二年生でしたので学校時代は一緒にプレーした事はありません。又卒業後は氏は早稲田・小生は三

の本大会に出場、確か準々決勝まで進んだ事があります。その当時小生と清野氏はプレーヤーとしては既に高輪であり、控えの待機要員でしたが、氏は当時まだなかなか好守好打のベテランで時々活躍したように覚えて居ります。

さて翻って青山(中学時代)の苦しい出を少々述べさせて頂きます。当時は勿論五年制であり、諸種の事情で野球部には三年生の秋に入部させて頂きました。そしてOBの藤・若槻徹・安藤希氏等のシゴキを受けおかげ様で五年生になりました時、計らずも主将を拜命致しました。ところが当時に上級生がゴッソリと抜けた所に新加入者もなく、部員が極端に減少、練習にも事欠く有様、肝心の試合にメンバーは八人しか組めず、致し方なく素人を頼んでやり繰りする始末。その上当てになるエースも見当らず、責任上矢面に立つ他なく、監督も困り果てたもの、仕方なく臨時投手を命ぜられ、責任上厳冬の校舎の廊下で無理やりガムシヤラに投球練習したために、肩を痛め、箸も持てない有様、これでは勝つどころか試合にもならぬ状態の連続、一時は野球部解散とかの噂まで飛び始末。以後は必死になって部員獲得が仕事になる情ない状況でした。

然しこれではいかぬとプレーよりも部員探しに走り廻る有様、現在高校のグラウンドで四・五十名の選手達の練習を見るにつけ、アーこのうちの一人でも当時居てくれたらナアと昔を想い感慨にふけて居ります。然しその後苦心の甲斐あって皆川登良夫氏を陸上競技部から引っこ抜いたり、清野準一氏や小沢太郎氏、鈴木治七氏のバッテリーも加わり次代には県下に覇を唱える様になり、アー苦しい時代をよく耐えたナアと当時を思い感慨深いものがあります。

前に戻りますが、前述戦後の社会人野球大会に参加後又仕事の関係で関西に転勤、新潟を去ると共に年を重ね、もう白球を追ふ機会もなくなりました。数年後齢を重ねて又新潟に戻りましたが、時代は変わり若い人の時代になりました。数年前清野氏と共に昔懐かしい青山葦原復活戦に並んでユニフォーム姿で撮った写真を見て懐かしんで居ります。

これからは諸先輩及び球友から授かった青山精神を確かりと心に刻み後世を過ごしたいと思えます。皆様のご健勝を祈って筆を擱かせて頂きます。

「新潟クラブ野球団」は皆様ご承知のように、戦後の若者意識昂揚のため市内の吉田組先々代平吉翁の肝入りで発足、青山出身者(阿部宏氏(35回)、鈴木治七氏(40回)、市嶋正男氏(45回)、小野寺稔氏(43回)、小野寺豊氏(45回)、鈴木實氏(S二十二年)他の諸氏)を中心に早大出の石黒投手を含む長岡勢の参加もあり、信越予選で長野県代表を敗り、後楽園球場

寄稿

一枚の在学証明書から

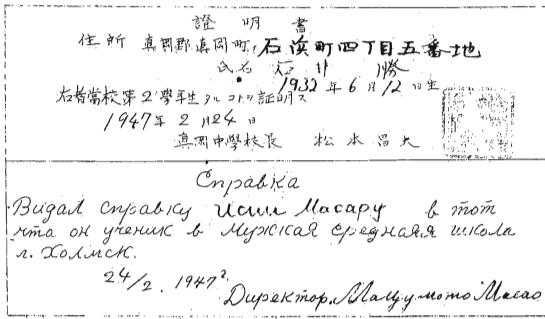
日口交流協会理事 60回 池端 哲

私は今、一枚の在学証明書をある感慨をもって眺めています。...

「敵性語」と称して中等学校以上では教えないような風潮があった英語を...

八月二十日、二人の姉と私が先に内地に向かう日でした。...

と囁きました。終戦の五日後のことでした。...



借りて残った少ない教師と生徒が午前夜の二部授業で学業を続けました。...

ていましたが、ややあって大意つぎの様なことを言いました。...

比較的豊かで平穏な生活があったように思います。...

八月十五日、ポツダム宣言受諾・敗戦で樺太はソビエトの統治に入るため直ちに住民(老人・女性・十四歳までの少年)の内...

八月十五日、ポツダム宣言受諾・敗戦で樺太はソビエトの統治に入るため直ちに住民(老人・女性・十四歳までの少年)の内...

戦乱の余韻も始まりソ連の軍政・民政のもと「敗戦国民」の悲哀を味わいました。...

帽子と制服に赤い線は帝国陸軍と新潟中学だけ、と言われた長い歴史と伝統を誇る新潟中学...

でも行政からのそれに類した「指導」が有ったのかもしれない。...

をしていましたので約1年のプランクはあっても「新制中学」レベルの試験は難しくありませんでした。かくして「変な少年」はめでたく青陵健児に「変身」したのであります。近年私も新潟中・高校六十回生が出版した「青山夢像館」巻頭言にあるように、戦後一回目の入学には所謂「外地」からの引き揚げ生徒の入学或いは途中編入がもつとも多かった時期ではないでしょうか。十三・四才頃の多感な時期まで日本本土とは異なる文化・風土に接したこれらの同期生は少し異質な性向を備え、多かれ少なかれ周囲にある種の「刺激」を与えていた者が多かったように思います。人間は「混血」によって改良されると言

います。その伝でゆくならば「全うな血」であることを前提にして、私も六十回生は「混血による改良種」で、青山百十年の歴史のなかで「エポック」であり「クリエイティブ モーメント」を示しているのかもしれない。

真岡中学在学証明書は自分のものは紛失しましたが最近同期生からそのコピーを入手しました。私は定年後三年ほどモスクワの大学でロシア語を学んできましたので証明書のロシア文には間違いも見受けられません。しかしたぶん当時の英語教師が即席で勉強したロシア語で作った証明書でしょう。ここにも往時が忍ばれて感無量です。

(一九九九年三月十八日)

「有朋自遠方来、不亦楽乎」

東京高等検察庁検事長 63回 村山弘義



「青山六三会」在新潟幹事役赤羽良樹(株赤羽会長)、山本弘司(山本電器(株)社長)両君を表敬訪問する機会に恵まれた。

お二人には、かねてから「青山六三会」開催案内をいただくなど、同級生としてお世話になっており、赤羽君は、「青山同窓会」本部の幹事長をも永らく勤め、母校に貢献している。

過般、東京高検検事長に就任した際、思いがけずお二人から「青山六三会」として祝辞をいただき、同級生の有難さをあらためて感じさせられた。

いわゆる古町商店街旦那衆の下、検察に対する国民の期待と信頼に添えて、しっかりと職務に精励するよう叱咤激励いただいた上、還暦の年、一人が幹事で「青山六三会」を開催した際、参会者に記念品として配ったという湯呑み茶碗を頂戴した。

「青陵健児」という大きな文字が達筆で腹の部位に絵柄の如く書かれた色合いもさわやかで立派な湯呑みであった。

思い起こせば、高校へ入学した昭和二十七年(一九五二年)は、創立六〇周年に当たり、その記念事業として、新しい校歌と校旗が制定され、一〇月に挙行された記念式典で披露された。

それまで、「玲瓏の天あふぐ時」に始まる旧制新潟中学の校歌が唱い継がれていたのが、この記念式典以降、現在の「百里流れて信濃川」に始まる校歌が唱われることになったのである。

「玲瓏の天」の歌詞は、五番まであって、その一番と五番が唱われるのが慣例だったように思う。

御承知のように、五番の歌詞

の締めくくりが、「青陵健児のかんばしき、荣誉(ほまれ)をあげむ弥(いや)高く」である。湯呑みを手に取り、「青陵健児」と口にしてみて、新人生としての春、入学式で唱う校歌「玲瓏の天」を一生懸命練習した日、そして秋、新しい校歌を唱った日など、あれこれが思い出され、感慨深いものがあつた。

新校歌・校旗の制定が慶事なら、大きな事変があつたことも忘れられない。

それは、昭和二十九年(一九五四年)、三年生に進む春休み期間を利用して当時恒例の関西方面修学旅行に我々が揃って出掛けている留守中、原因不明の大火により、校舎が体育館等一部を残して全焼するという災難に見舞われたことである。

焼跡へ応急的に作られた木造バラック校舎で新学期の授業が始められ、無事卒業と相なったのだが、木の香りは新しいものの、安普請の狭い校舎は如何ともしがたく、雨天の日など行き場もなく教室、廊下は喧騒を極めた。

この三年生のとき同クラス(B組)であった者が、在京の竹山行三君(アクアエンジニアリング(株)取締役)の呼びかけで近々、横浜にて会合を持つことになって

五〇人程のクラスであったが、竹山君によれば、一三人が東京近辺に居を構えていて、それが集まるという。

案内状には、会場は「三Bのボコボコ教室に比べれば、三ツ星クラス」とある。

あの火災によるバラック教室には今でも、お互い強烈な印象を共有していることがうなずける。

ところで、郷里新潟を離れて四〇余年。社会に出て、検事という変わり種の職に就き、東京はじめ、北は札幌、南は福岡と二〜三年に一回は各地の検察庁を転勤し、それに伴い転居すること一七回。多事多忙の日々と遠隔地居住にとりまざれ、いつしか郷里の親戚縁者との付き合いにも不義理を重ね、学生時代親しかった方々とも疎遠となり、歳月が過ぎていくというのが実のところであるが、有難いこと

に「青山同窓会」本部からは、会報をいただき、母校の様子の一端を知ることができる。

また、「青山六三会」も有難い存在である。

近々の横浜での「青山六三会」は、卒業以来初の対面という友がほとんどである。

社会で経てきたそれぞれの年輪と相応の皺を額に刻んで約五〇年振りに登場する姿を、お互いの学生時代に重ね合わせ、何はともあれ、互いの健在を確かめ合い、久闊を叙すことになる。

「朋あり遠方より来たる。また楽しからずや(論語学而巻頭)」である。

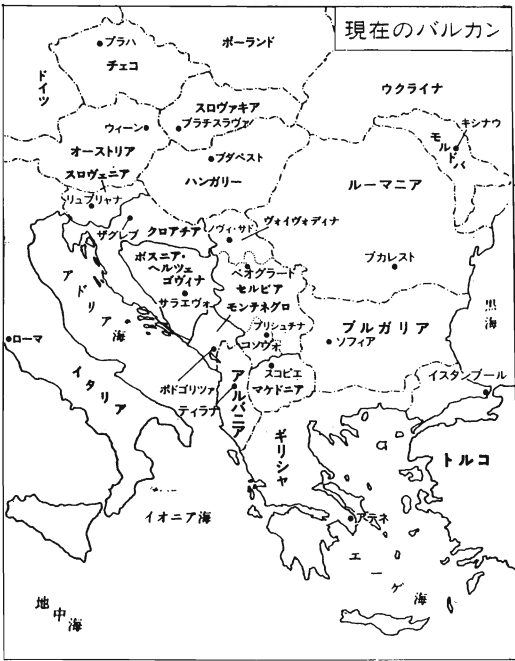
さて、平成一四年(二〇〇二年)が母校創立一一〇周年とのこと、記念事業がいろいろ計画されていると仄聞する。

「青山同窓会」の益々の発展盛を心から願っている。

バルカンの行方

駐ブルガリア日本国大使 67回 松井 啓

前回の寄稿では、新潟高校時代に池政栄という世界史の立派な先生がおられて、その先生の潜在的影響によってか外務省に入ったことを書きました。今回は、石田瑞穂同窓会幹事長はコソヴォ問題について「直接生の情報をポンといただく」ことを希望されていましたが、実態は刻一刻と変わっていますし、日々のマスコミ報道と競争しても意味がないので、私の個人的な体



験と重ね合わせて、この問題の本質について触れてみたいと思
 います。
 私は一九八六年八月に女房と小学生の娘三人とともにユーゴ
 スラヴィア社会主義連邦共和国
 (旧ユーゴ)に日本国大使館公
 使(大使の次ぎの第二番目の地
 位)として着任し一九八九年ま
 で約三年間そこで過ごしました。
 ベオグラード市営病院で生まれ
 た長男は、現在十二才で当地ソ
 フィアのインターナショナル・
 スクールに通学しています。当
 時旧ユーゴは一種の数え歌のよ
 うに、七つの国境(ルーマニア、
 ブルガリア、ギリシャ、アルバ
 ニア、イタリア、オーストリア、
 ハンガリー)、六つの共和国
 (セルビア、クロアチア、スロ
 ヴェニア、ボスニアヘルツェゴ
 ヴィナ、モンテネグロ、マケド
 ニア)、五つの民族(セルビア、
 クロアチア、スロヴェニア、ア
 ルバニア、マケドニア)、四つ
 の言語(セルヴォ・クロアト、
 スロヴェニア、アルバニア、マ
 ケドニア)、三つの宗教(キリ
 スト正教、カトリック、モスレ
 ム)、二つの文字(ローマ字、
 キリル文字)、一つの国家と称
 され、民族自決の理念のもと、
 ティト大統領の強力な指導力
 により一九一八年誕生したこの
 国は、色あせたとはいえまだ非
 同盟の盟主の旗印を掲げていま
 した。
 それから十二年後の一九九八
 年九月に、今度は隣のブルガリ
 アに女房とこの長男を連れて大
 使として着任しました。現在長
 女、次女、三女はそれぞれジャ
 カルタ、カイロ、サンフランシ
 スコにある大学で勉強中です。
 「ワインと薔薇とヨーグルト」
 の国ブルガリアでの私の勤務は
 まことに静かなスタートを切り、
 半年後にはNATOのユーゴ
 スラヴィア空爆が七十八日間も
 続き(六月十日停止)、誤爆で
 あるとはいえブルガリアにも7
 発ものミサイルが落ちることに
 なると思ってもみませんでした。
 た。
 一九九一年にソ連邦が崩壊し、
 その構成国が各々独立して、ロ
 シアを始めとする十五の新しい
 独立国が生まれました。また、
 ソ連邦の崩壊に伴いソ連圏も瓦
 解し、コメコン(ソ連を中心と
 する社会主義計画経済体制国家
 の協力機構)もワルシャワ条約
 機構(西側のNATOに対抗す
 るソ連を中心とした軍事機構)
 も消滅しました。いわゆる東ヨー
 ロッパの国々は、ロシアの経済
 的軍事的束縛から解放され、東
 西両ドイツは西ドイツに統合さ
 れ、ハンガリー、チェコスロヴァ
 キア(後にチェコとスロヴァキ
 アに分立)、ポーランド、ルー
 マニア、ブルガリアも新しい体
 制に生まれ変わりました。旧ユー
 ゴは、スロヴェニア、クロアチ
 ア、ボスニア・ヘルツェゴヴィ
 ナ、マケドニアが独立し、残っ
 たセルビアとモンテネグロの二

共和国だけで新ユーゴスラヴィ
 ア連邦を結成し、5つの国家に
 分裂しました。
 二十世紀の主要な戦争は大国
 の種々思惑が絡んで全てバルカ
 ン半島から始まりました。旧ユー
 ゴ在動中に家族旅行で訪れたサ
 ラエヴォ(当時のボスニア・
 ヘルツェゴヴィナ共和国の首都)
 には町の中を流れる川にプリン
 ツィップという名の橋が架かっ
 っていました。これが一九一四年
 オーストリア・ハンガリーの皇
 位継統者フランツ・フェルディ
 ナント大公夫妻が馬車で通過中
 プリンツィップに狙撃暗殺され
 た場所です。バルカン戦争が一
 九一三年に終結したのもつかの
 間、この銃声が第一次世界大戦
 へと拡大していったのです。
 セルビアの一部を形成してい
 るコソヴォ地方は、十二世紀中
 頃セルビア王国が成立した時の
 中心地でしたが、一三八九年の
 コソボの戦いによりセルビアは
 トルコに敗れ、以後四百年以上
 にわたりトルコの支配を受けま
 した。その間セルビア人の流出、
 アルバニア人の流入などにより
 民族間の人口構成は変わりました
 が、セルビア人にとっては、
 コソヴォはセルビア王国発祥の
 地であり、「聖地、故郷」です。
 他方、コソヴォは旧ユーゴ時代
 末期までは人口2百万ばかりの

自治州でしたが、九〇%までが
 アルバニア人で占められ、セル
 ビア人は少数民族となっており
 アルバニア人からの迫害もあり
 ました。
 一九八七年四月セルビア統一
 を旗印に掲げて登場したミロシェ
 ヴィチは、大規模なデモをベオ
 グラードで組織し、コソヴォの
 首都プリシュティナに乗り込み、
 「もうだれも君たちを殴らせな
 い」と演説をぶって、大衆
 の支持を集めベオグラード市党
 のトップに踊り出、九月にはセ
 ルビア共和国大統領となり、一
 九八九年にはコソボの自治権を
 剥奪しました。これに対しアル
 バニア系住民がコソヴォ解放軍
 (KAL)を組織し武力闘争を
 開始し、ここからセルビア人と
 アルバニア人との間の血なまぐ
 さい紛争が陰に陽に拡大してい
 きました。ミロシェヴィチ大統
 領はセルビア人の反アルバニア
 人感情を煽り、コソヴォにおけ
 るアルバニア人の「浄化」を急
 速に推進していったため、これ
 が最終的にNATOの反発を呼
 び、ミロシェヴィチ大統領の頑
 な態度が結局先に述べた軍事介
 入を導くこととなりました。空
 爆は停止されましたが、種々思
 惑が交錯しているため事態はア
 メリカが望むほど明確な形で終
 結することにはならないのは、

永いバルカンの歴史を見れば明
 らかでしょう。
 ユーゴの首都ベオグラードか
 ら南方約二百キロにあるニシユ
 という町には、オスマン・トル
 コ軍が殺したセルビア人の髑髏
 を見せしめに壁に埋め込んだ寺
 が大切に保存されていて、旧ユー
 ゴ在動時代に家族とともに訪れ
 て、壁から見下ろす数多くの髑
 髏に息をのんだものです。また、
 今年の六月二日、イタリア大使
 館の国祭日レセプションに出席
 しようとして車でソフィア市の中心
 街を走行中、突然サイレンが鳴
 り交通が全面的にストップした
 ので、ユーゴ空爆の流れ弾がと
 うとうここまで飛んできたのか
 と思いましたが、周りの様子は
 平然としています。後で分かっ
 たところでは、オスマン・トル
 コ支配時のブルガリアでフリス
 ト・ボテフという英雄がトルコ
 に対し蜂起しましたが力及ばず
 一八七六年六月二日にカマラタ
 山頂で戦死したのを記念し、そ
 れ以降もブルガリアの独立・防
 衛のために勇敢に戦った兵士を
 讃え、毎年六月二日十二時に三
 分間の黙禱を捧げていると
 のことでした。

このようにバルカン地域には、
 波が打ち寄せては引くよう、周
 辺からその時々様々な人種、
 言語(文字)、宗教が侵入して

来て、あるものは消え去り、他のものは痕跡を留め今に至っています。旧ユーゴはモザイク状の種々民族を寄せ集めて一つの国家としたものでしたが、ブルガリアにしろトルコにしろ、ルーマニアにしろこの地域の国家はいずれも種々の少数民族を抱えていますので、自国のアイデンティティー(同一性)をどうやって維持強化するかは重要課題で、自国の歴史や文化を大切にしています。国名、国旗、国章、国歌は民族統一の象徴として死活的意味を持つていますので、これらについて憲法中にはっきりと規定してある国もあります。他方、何百年の歴史を持ち、国連、オリンピック、国際協力などの場面で親しまれ尊敬されてきている国旗や国歌を明確に自国のものと認知することさえできないような国は、世界では例外的な存在です。日本が自らの歴史や文化を誇りに思わない国と見なされ、尊敬されなくなるのではないかと心配しています。

矢川君と

男性カルテット 「ゆーかり」

60回 坂井 丈夫

昨年十一月十三日に開催された東京青山同窓会の懇親会で同期の矢川和偉君等男性四人のコーラスグループ「ゆーかり」が綺麗なコーラスを披露して参会者を喜ばせた。在京60回生の新年会で熱唱して貰ったこともある。「ゆーかり」は昨年結成十周年記念コンサートを開催し聴衆約千人を集める盛況であった。発足以来同期生のファンも多く家族同伴で駆けつけた者もあり休憩の時間は恒好の交歓の場になった。矢川君は卒業時表彰された



優等生であるが、こんな特技を持つて私を知ったの

は卒業後である。それは高校を卒業し進学した昭和二十七年夏の日曜日であった。所用を足した帰途、中大講堂の前に「全日本大学合唱コンクール関東地区大会会場」という看板が立ち人が出入りしていた。一寸覗いてみようと入場しプログラムが横浜国立大学の番になったとき私はわが目を疑った。中三、高一のツロをテノールで歌い始めたのである。早速楽屋を訪ね鉦玉を差し入れ激励した。聞けば合唱部に入って歌っている。横国大は関東地区ではトップになるが全国大会になると関西学院大学の後塵を押し大抵二位になるのが残念だとのことであった。そして十年前彼は当時の部活の仲間に関学の一人を加えて「ゆーかり」を結成し毎年コンサートを開催し招かれる機会があれは交通費程度の実費であちこちでコーラスを披露し人を喜ばせているのである。これはいわば趣味を生かした社会貢献で、まことに有意義な生き様である。ところで十周年記念コンサートのときには昔郷党の稲葉修元法相に「伴の嫁にしたい」と褒められた竹下景子さんが友情出演し、ステージで矢川君と面白いジョークを掛け合い、歌を歌った。吉永小百合さんの持ち歌で

あった。さて私は都庁在職中小百合さんの義理のお兄さんを部下にしていたことがあり小百合さんのファンなのだが、天は二物を与えずとか歌は上手くないと思っっている。竹下さんもへボでそれがまた良かった。

関西懇親会に参加して

83回 佐藤 悌二郎

上杉雅之先生から突然のお手紙。開ければ、会報への原稿依頼。昨年十一月の関西懇親会の感想を軽いタッチで書いてくれないかとのこと。しかし半年以上も前のことである。断片的にしか覚えていない。薄れた記憶の糸を手繰り寄せながら、思い出づるままに振り返ると...



昨年十一月二十日、一年ぶりに関西在住の同窓生が一堂に会した。今回は、我ら昭和五十年第83回卒業生六名、松本和彦、渡邊友昭、大塚芳信、柿島裕、乙川真理と私)が司会、受付等を仰せつかったこともあり、前年以上の盛況を願っていたが、出席者はおよそ五十名、前年と比べ若干の減少であった。しかし、新潟から早福卓監事、上杉雅之監事、石田端穂幹事長をお迎えし、こじんまりとした中にも賑やかな懇親会となった。

私は「ゆーかり」に同窓会の余興で歌って貰うのもいいが一寸勿体無いと思う。郷里の新潟で大コンサートが開催できたら、と思っっている。何か名案はないだろうか。

まずは、開宴に先立って佐藤幸治京大教授(第64回)のスピーチである。実は佐藤教授は私の叔父、どんな話をするのか、身内としてはやはり気になる。しかも頼んだ手前もあり、大学の講義のような難しい話にならないかと心配していたが、反応はまあまあで、ホッとひと安心。その後開宴となり、歓談。そ

れから来賓挨拶、メッセージ披露、母校の近況報告、現役大学生の紹介、飛び入りのスピーチと続き、締めはやはり新旧校歌と応援歌「ますらお」。特に「ますらお」は、不思議と在学当時のさまざまな記憶を呼び覚ましてくれる。声をかぎりに歌っておられる先輩の顔も、さめた感じで少し恥ずかしそうにそれに合わせている卒業後まだ日の浅い後輩の顔も、みな、この歌を歌った頃に返って、当時に思いを馳せているようであった。

とはいえ、いかに盛り上げようとしても、同窓の方々のご協力いただかなくては、それは叶わないことである。関西に住んでおられる皆様には、どうかこの関西青山同窓会をみんなで盛り立て、発展させていこうという強い願いを持っていただきたいと思います。そして、来る十一月の会合には、去年出席された方はもちろんのこと、まだ一度も参加されたことのない方にもた

くさんご出席いただいて、盛大に同窓会が営まれることを心から願ひ、楽しみにしている次第である。

高校時代の仲間とは、帰省した折に会えなくはない。しかし、こういった機会でもないとなかなか会えないのもまた事実である。郷里を離れた者同士が、この関西の地で、年に一度でも会って、ふるさとへの思いや近

普通科(歩兵)中隊長として

87回 高橋克彦



況を語りあう。恩師や旧友の消息を語らい、思いをはせる。これはこれで実に楽しいものである。時間に追われ、仕事に追われる日常からしばし解放された心がほぐれ、いつしか心暖かな幸せな気分になってくる。

一晩に一mの新雪を頂く真冬の妙高において雪壕の中に何日も潜在することは雪に慣れた隊員でさえ容易なことではありませぬ。ましてや沖繩の米国海兵隊員は冬山の厳しさをかなりの驚きと共に知った事でしょう。

強を誇る平均年齢二十二才の彼らは最新の通信・情報機器を駆使し、あらゆる地形・気象条件下で戦い抜く。しかし、積雪三mの冬山ではスキーの苦手な者にとつては大変な困難が待っています。生存するための荷物と通信機材を背負つて目的地に進まなければならない。不得手な上に荷物で不安定になり、転倒を繰り返すと徐々に体力を消耗させてしまう。そこでは、やはりスキーに熟練した我が中隊の古強者達の活躍の場となります。

今回の日米共同訓練のシナリオは、海兵隊斥候チームの偵察結果に基づき二中隊が攻撃を実行するものでした。この訓練終了後、暫くしてユーゴ・コソボ紛争で空爆が始まりました。米陸軍の偵察隊員が捕虜になり、ユーゴ側からテレビ放映された時は、流石に他人事ではなく釈放の報に安堵しました。ところで米軍と訓練をすると常にギャップを感じるのが彼らの若さです。屈

い状況に我々が古参隊員も驚き。予定を二時間オーバーして朝五時集結地に到着。次は直ちに別のチームと接触し敵情を入手しなければなりません。ところがGPS使用の米軍はピンポイントの位置標定はできず無為な無線のやり取りが続く。予定地を諦め分かりやすい橋梁を接触点として漸くコンタクトできました。失敗は成功のもと。この様

隊の古強者達の活躍の場となります。若年隊員を叱咤激励しながら、百kg以上の資材を積んだ大型のソリ(アキオ)を四人がかりでグレイ引つ張っていく。海兵隊員へのスキー指導を通じて「君ら自衛隊員は小さな体で本当に凄いな。」と感嘆の声を上げていたのも束の間、我々の体力を過信してか、総合訓練では大変な目に会いました。第一段階は中隊が海兵斥候チームの誘導で集結地を占領するものです。夕方五時スキー行進開始し、斥候との接触は午前一時、既に彼等の装備の違いをわかっていてと思ったのが相互理解の難しさで、百二十kgのソリを五艘も引く我が中隊が三十mの崖に誘導されました。夜通しの雪中行進下、重量物はもとより隊員もロープで降下しなければならな

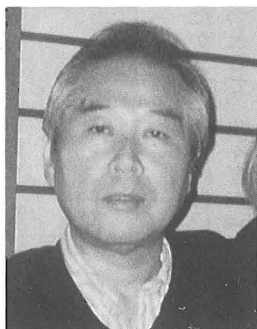
なエピソードを残し三週間に及ぶ共同訓練を終了しました。若年隊員に感想を聞くと「一生忘れられない訓練です。」と答えました。笑う隊員全てが肌は真っ黒に雪焼けし、心身共に見違える程遅くなっていました。

私は、卒業後四十年間新潟を離れて、千歳、札幌、東京、旭川、東京、沖繩、豊中、堺、そして退職時は福岡でした。本年三月三十一日、三十六年間勤務した「ANA」(Ana Stands For Non Accident)《これは私の勝手な表現です。》をいつ

「I」と記述します。D、お客さんは標準語をお話しになりますが、出身はどちらですか
I、私の出生地は青森の浅虫温泉ですが、三才のときに新潟県の本籍地(紫雲寺村米子)に戻りました。
D、それでは新潟市長の長谷川さんをご存じですか。
I、残念ながらお会いしたことになりません、高校の大先輩になります。

I、局長か部長でしたら公用車があるのではないですか。
D、市長さんは、こう説明されました。「私は出向の身であり、せいぜい二年間ほどの勤務だと考えてます。公用車を使用すると運転手が特定されます。短期間で当地を理解するには情報が豊富で、かつ運転手さんが固定されないタクシーが好都合と考えました。」
I、私は思いつきませんが、合理的で、賢明な方法かも知れませんね。今日は貴重なお話しをありがとうございました。

私の経験した
先輩との
エピソード2題
67回 石井 俊



も愛すがゆえに、定年まで十五ヶ月を残して、A Happy Retirementしました。四月十六日に法的に再び新潟市民となりました。(私は勝手に、BostonianをもじってNigatanianを自称しております。)そこで、自己紹介をかねて先輩との係わり「エピソード二題」を披露させていただきます。

私は、卒業後四十年間新潟を離れて、千歳、札幌、東京、旭川、東京、沖繩、豊中、堺、そして退職時は福岡でした。本年三月三十一日、三十六年間勤務した「ANA」(Ana Stands For Non Accident)《これは私の勝手な表現です。》をいつ

《その一》最後の勤務地となった福岡での体験です。ある日天神から空港までタクシーを利用しました。その時の運転手さんとの会話を紹介致します。以後運転手さんを「D」とし、私を

《その二》大学受験時の遠い昔

の話で恐縮ですが、それは、昭和三十四年二月のハブニングでした。

私は理数が弱く、東京のW大の法学部と教育学部(滑り止め)そしてC大の法学部を受験する計画でした。そのために某日急行列車で上京しました。私は中学の修学旅行で東京のごく一部を見学しただけで非常に不安にかられました。私が早めに着席していると、後程フランスの男優のクリスチャン・マヌカンに良く似た男とその友達らしき人の二人が私の前の席に座りました。その彼が県会議員吉田吉平(当時)さんの息子さんで、ただ今国会で大活躍中の「六ざえ門」さんでした。

以下会話風に記述します。
Y、高校は何処？
I、県高です
Y、じゃあ、お前俺の後輩だよ。ところで何処を受けるの？
I、W大を2個とC大を1個です。
Y、俺もその理工を受けるんだよ、おまえ初めてだろ、俺が案内してやるよ。
I、先輩、ありがとうございませう。
もう記憶が若干薄れましたが、今ご当地新潟でご活躍の先輩お二人との出会いを思い出して書きました。

同期会の報告

青山三八会の近況

38回近藤 圓

昭和六年第三十八回の卒業生の会を青山三八会と称している。卒業以来六十八年経ち、会員も八十六・七歳の老齢となった。年齢は争われぬもので、年と共に逝去する人達も増えてきた。最近の物故者では、小原剛、河内直治、山田重平、高橋祐司、宮路四郎、関能克信、清野準一、山口五郎久長の諸君がいる。〈謹んでご冥福を祈ります。〉

俊彦、田中松一、田村勇作、早川拓生、吉田昭平、渡辺義平夫人、近藤圓の八名が田中ホテルに参集し緊急協議した。その結果渡辺君の健康状況から、更に継続は無理、迷惑と察し、当日割合元氣そうな様子をしていた近藤圓に今後の仕事を一任することに決定した。

気持ちとして五万円を渡辺氏へ拝呈した。残金は会員の弔費として支出する予定である。なお毎年一回開いていた例会も一応休止することになった。ついてながらこの席にて、母校の新築を記念し、三八会として会員関屋俊彦画伯(新制作協会会員)の百号の画を寄贈することになった。青木校長さんよりも喜んで納受するとの許可を頂き掲額の場所も決定してきた。(全国の三八会員各位には、これを以って会のご連絡といたします。近藤新幹事長の住所は、〒950-0013 新潟市白銀一丁目11-17、電話〇二五二七-一四一九五、FAX〇二五二七-〇四一六二です。)

四二回東京クラス会

42回 田中正吾

当会の創立以来、会の運営と事務一切を引き受け、全く寸分の隙もない仕事をして頂いた渡辺義平幹事長も、長年の無理からか、病弱その任に堪えないとて、かねて辞意を洩らしておられた。

二月十八日昼、東京在住の旧制中学四二回(昭和十年卒業)の有志が、白梅紅梅満開の新宿御苑に集った。正午頃、食堂のテーブルにいた十三名の級友は、久し振りの再会にささやかながら盃をあげて、お互の健康を祝った。

そして、新生日本の再建と復興。常にその第一線にあって活躍してきた我われは、お互話の種に尽きることはない。所要で中座する人もあったので、梅の木の下で記念写真をとって、再び席に戻り三時過ぎまで懇談、来年は二月の第三木曜日をきめて解散した。

氏の後任を決めるべく、五月二十五日、当番幹事の早川拓生君の招集により杉垣一男、関屋

大戦、敗戦、戦後の混乱と窮乏、

級友の消息 コンポンこと高橋



宏君は昨年の会には元気な顔を見せていたのに六月十三日、聖

青山54・55同期

「古稀を祝う会」開催

ヶ丘ホスピス病院で胃癌のため逝去。広川治君は脳出血のため入院加療中だが近々在宅看護になる予定。相沢康平君は足が不自由のため、朝日輝・塩谷正雄君は所要のため残念ながらいずれも欠席。
当日の出席者(敬称略)
荒川泰二・石井嵩・岡田龍雄・小笠原一男・小泉俊平・佐々木庫一・高橋二郎・田中正吾・堤清作・鳥羽正隆・東城眞佐男・堀庄作・村井惟徳
(以上十三名)

「少年易老学難成」。学が成ったか、成らぬかは自己評価に待たずとして、我々青山54・55同期は、古稀を迎えることとなった。帽子の赤線に憧れて、新潟中学の校門をくぐったまではよかったが、赤線をつけるいとまなく、たちまち戦闘帽になってしまったという紅顔の美少年たちであった。

入学時二百五十名の同期生も六十有余名が物故された。東京近郊在住の同期生は毎年七月七日七夕会として懇談会を開き、新潟組は一月五日に新年会を恒例としている。さてそこで「一寸光陰不可能」ということで、六月二十四日に東京組、新潟組合同で「古稀を祝う会」を開催することとなった。まさに「一期一会」ということである。第一部は越後一の禅寺・日本一の庵寺として名高い塩沢雲洞庵(住職は同期の新井勝龍師)で物故同期生の慰霊法要を行う。第二部は越後湯沢温泉「ホテル双葉」で盛大に懇談会を開催する。
席上、勲四等を叙勲された山田源行さん、片桐敬式さん、大

橋定雄さんのお祝いと、新潟大
学々長としてご苦勞された武藤
輝一さん（現長岡日赤病院々長）
のご慰勞会も兼ねることとなっ
た。

ひそやかに、華やかに

以上 ご報告まで
幹事 今湊良敬

56回 江口直禎

吾が同期は三三三名、昭和十
八年入学時は二六五名、一クラ
ス五十三名、五クラスの出達で
あった。それが旧制中学と新制
高校の両制度に遭遇して第二次
大戦後吾が学年三〇〇を超える
大世帯となった。

この二、三年、最後のあがき
ではないが、何かと話題づくり
に事欠かない。ひと呼んで「イ



平成11年度青山五十六会同期会
平成11年6月18日 於 イタリア軒

京者を中心に青山五十
六会がつくられ、隔月
十六日に東京五十六会
が催され、新潟では藤
井泰介幹事長の呼びか
けで、毎月第二水曜日
に定例会を催している。
多い時で十六名、慣ら
して十二、三名が集まっ
て憂さを晴らしている。
珍客としてドイツから
真壁祿郎（ドイツに永
住、元フランクフルト
大学眼科教授）が出席
したり、米国から青木
忠夫（細菌学の権威で

昨年卒業五十周年記念同期
会を越後一の宮弥彦の地で県内
外合同の会を開催した。県外か
ら十八名、県内三十一名併せて
四十九名の参加を得、泊りがけ
で楽しい時を過ごした。その際
の提案で、記念誌を発行するこ
とが決った。ことの発端は三水
会（毎月新潟在住者の月例会を
第三水曜日に開催）で卒業時、
アルバムも作られなかったこと
だし、仲間の写真等を持ち寄り
記念誌を発行しようということ
になった。急遽数名の編集幹事
が決められ、昨年の夏数回の会
合を重ねて記念誌が発行された。
スナップ三十数枚、近況文、住
所録等四十ページ程の冊子が出
来あがった。配布後わかったこ
とだが、記念誌が届いた時には
重体で記念誌を懐かしそうに見
て、数日後に他界した者、奥様
からの便りで主人は寝たままの
重体だが記念誌を枕元に置いて

平成十一年二月十三日午後一
時三十分より「ニュー越路」に
於いて囲碁大会が開始された。
参加者は有段者佐藤・谷両七段
以下七名、1級〜9級まで五名
計十二名であった。試合方法は
有段者と有段者、無段者は無段
者の組合せで、以後勝った者同
志負け組同志で対戦を行ない、
勝ち進むと有段者、無段者の対
局も行なわれた。対局数は多い
者で五局、少ない者で三局であっ
た。

対局は和気あいあいの内に進
み、鼻歌を歌うもの、自分で自
分に気合いを掛ける者、なげき
節専門の者、だんまりをきめこ
み考え込む者等様々なタイプが
みられた。「たかが碁くらいで、
そんなに考えるな」「碁だから
考えんだわや」などお茶など飲



みなながら時が過ぎて行った。一
番のケツサクはあめだまを配っ
た奴がいた。「おい、あめしや
ぶらす気らか」「あめとむちら
か」など有難いのか有難くない
のか、わけのわからないヤジも
あったが、配った当の本人は無
言でニコニコしているだけ。そ

成績は次の通りである。
一位佐藤 進 三勝一分け、
二位飯塚 実 二勝一分け、三
位藤田 学 二勝一敗、四位谷
博之、二勝一敗、五位宮田兼好
三勝二敗、六位菊池文雄 二勝
二敗、七位伊佐 修、二勝二敗、
八位小野寺宏、二勝二敗、九位
菊池晴彦、二勝三敗、十位安部
邦造、一勝二敗、
「ひさびさに頭を使って疲れた
なあ」「次も仲間を増してやろ
う」などの発言があり次の大会
を約して解散した。時刻は五時
三十分を一寸過ぎていた。

青山59期

第10回記念囲碁大会 並びに新年会開催

見てもらっている者など記念誌
の発行が多少でも皆さんの生活
に潤いを与えることが出来、幸
せに思っている。

な働きかけあつてのことと感謝
している。
月々ゴルフコンペを催したり、
来春は古希を記念しハワイで連
れ合い同伴の会合を持つとうなど
互いに慈しむ会を持つべく工夫
しあつて現況である。

うとう神経の太い男とお見受け
した。
さすが有段者の碁だけに無段
者の小生などみてもよく分
らない。小生の考えていない所
へ打ったりするので、実力の違
いをつくづく感じさせられた次
第である。

表彰は一位〜十位で、一位は
持ち廻りカップ、一位〜五位迄
はカン入りの米菓、六位〜十位
は米菓の半分位の大きさの干し
しいたけであった。十一位以下
は参加賞で洗剤であった。

すでもなく、かまうでもなく皆年をとり過ぎた感を受けた。

つぎに囲碁大会の表彰式にうつり、幹事より成績発表、佐藤会長より賞品の授与が行なわれひとしきり囲碁の話に花が咲いた。六時四十分よりビンゴゲームが行なわれた。賞品はフランスワインが五本であった。ビンゴの番号が読み上げられると「あつたあつた。」「ないし」

などさかんに声がとんだ。一番早くリーチのかかった者があがれなかつたり運、不運を感じた所である。なかには「の何番出せ」などと要求している者もあれば「Iの何番」と言われ「I(愛)はない」など家庭不和でもないだろうが、年令からくる身体的な衰えか、各自ヤジをとばしながら進んでいった。一番最初のワイン獲得者は塚田俊男君であった。久しぶりに顔を合せた者もいてお互いの近況を話し合ったりした。体力増強?のためジムにかよっている者、中国まで碁を打ちに旅行をした者、第二の職場で頑張っている者、何もしない年金暮しの者、生き方は様々である。そこは同級生、会えば昔話に夢中になり和気あいあいの内に八時四十分再会を約して59期の新年会を終了した。

当日の参加者は次の通りであ

る。(順不同)

佐藤 進、谷 博之、安部邦造、飯塚 実、藤田 学、西脇 諭、菊池晴彦、白井三男、小野寺宏、伊佐 修、菊地文雄、関根彰圓、塚田俊夫、鈴木誠一、

新川 滋、五十嵐哲夫、岩永伸、川上忠男、重野行甫、品田茂博、宮田兼好 以上二十一名の参加であった。(宮田兼好記)

67回卒業四十周年 月岡で記念同期会

五月二十二日(土)新潟駅南口に集合した同級生は、旅館のバスで、新築の母校を訪問。県下で初めてという視聴覚教室に驚き、設備の整った特別教室や構内を見学の後、月岡温泉の清風苑へ。車で直行組と合流、部屋で旧交を暖めたり、入浴の後、

大広間に集合。開会に先立ち、写真撮影、開会。亡くなった同級生に黙禱を捧げ、来賓の恩師、遠藤久雄、小田一彦、宮地正樹の各先生方から挨拶を戴く。前回の教訓から参加者の自己紹介を省略(一人三分×六十人)百八十分これだけで宴会時間が終わる。事前に寄せてもらった自己紹介、近況報告をまとめた四十周年記念誌を読んでもらうこととする。これには欠席者からも近況が寄せられている。大阪から参加の北場勝也君の発声で乾杯。以後は歓談。ビール、銚子をもってあちこちそれぞれが注ぎまわり、話が弾む。十数人参加の、モテモテのマドンナたち。今年の新入生は女子の方が多いと聞いて驚く。我々のときは希少価値あり。三年間やもめの男たちもあり。新潟市以外からの参加者に福引。コシヒカリや、地酒があた



引。コシヒカリや、地酒があた

る。名残は尽きぬが、今夜新潟へ帰る人もいるので、大広間は中締めとし、校歌、応援歌を歌う。

朝まで飲めるよう手配された二次会の別室へ移動する。宿泊参加者がほとんど集まって、すしづめの二次会であった。今は

ちょうど定年、還暦を目前にし、人生多忙。参加したいがなかなか無理な人もいるので、還暦過ぎたらまた会おうという事を決めた。(二〇〇一年、東京での予定)翌日はゴルフ組、観光組に別れて朝食後解散。(石田)

中には恩師としか思えないような同窓生もいて、三十年の時の流れを感じる。十三名の恩師と八十二名の同期生が一堂に会し、JRの時刻表並みに定刻に開始。司会の旧姓山田さんが十人の物故者の名前を読み上げ、黙禱を捧げる。長谷川くんの指揮でうる覚えの校歌を唄い、志田先生のお元氣な乾杯の音頭で宴が始まる。プロとして活躍しているロス・デル・セキヤこと、瀬賀くんと多田くんの軽妙なトークとギターを聴き、出席できなかった同級生たちの一口メッセージに目を通しながら、あちらこちらで、そちらどちらと盛り上がる。酒の勢いで、次回は還暦同期会と決定。それでは淋しいからと、毎月七日午後七時に西堀七番町にあるイタリア軒で、暇な人間が集まって飲もうと安易に約束が出来上がる。最後はお馴染みの「丈夫」で締めくくったはずなのだが、それぞれに二次会三次会と繰り出して、おそろく午前様となった模様。

77回同期会 現場中継

幹事代表 小林 悟



しかし何となく嬉しい。第二限は滝澤強一先生の古文。源氏物語に登場する女性の美人度の解析という、いかにも中年向きにパージョンアップされた講義で笑い声に包まれる。鳴り止まぬ拍手で締めくくられた模擬授業が終わり、三々五々新校舎を見学したり、正門前の第五そばでラーメンを食べたりしながら、懇親会場である市内のホテルに移動。

受付に来る懐かしい顔顔。だ幸せをかみしめる。

だ幸せをかみしめる。

だ幸せをかみしめる。

五十九期

新潟・東京合同同期会

59回 花井 進

さる六月十二日(土)、心掛けのよい好々爺が多いせいかな晴天に恵まれた越後湯沢のニューオータニホテルに於いて、田辺啓三先生をお迎えし、表記の同期会が盛大に開催されました。

さてやがて午後五時三十分となり、全員が集合して記念撮影を行った後、宴会場に案内され、懇親会の幕が切れて落とされました。

はるばる京の都、江戸の都、越後の都より集える丈夫三十五名は、久方ぶりの再会にお互い手を握り締め、元気で参加できたことを喜び会いました。

園城英二君が司会を担当し、物故された恩師と同期生のご冥福を祈って黙禱の後、新潟同期会代表の関根彰園君より「遠路にもかかわらず田辺先生が参加下さったことに感謝申し上げます。さて平成十三年は母校創立

東京方面から参加した小生は、萌えるような新緑と山頂に残雪を頂く谷川岳の偉容を眺めながら、自然の美しさに心洗われる思いで午後三時頃会場に到着致しました。

何らかの支援をしたいと考えており、その節はご協力をお願い致します。また、私事ですが、ラグビーをやり過ぎたせいか最近足首、腰、首を痛め、おまけにパーキンソン病にかかって不自由な思いをしています。皆さんも健康に気をつけていつまでも元気に過ごして下さい」との挨拶があり、続いて東京同期会代表の茂泉喜彦君より「昨日東京青山同窓会新人歓迎会が、赤

開会が午後五時三十分ということもあって、三々五々の集結でしたが、早めに到着した連中は早速温泉で汗を流し、浴衣に着替えてくつろいでいました。当日は近隣の中学校や高等学校の同期会が六組も重なり、正面玄関ロビーは受付用のテーブルが所狭しと置かれて、大勢の初老の男女で賑わっております。

坂のホテルニューオータニで、百二十人が参加して盛大に開催されました。今年度栗林貞一君が斎藤伸雄前会長の後任として、東京青山同窓会の会長に就任されましたので、我々同期の会員も積極的に支援して行きたいと思えます。若いメンバーによって今後斬新な活動が行われるものと期待しています」との挨拶がありました。



同期会代表の挨拶が終わり、田辺先生より「皆さんとは一年間担任をしただけなのに招待を戴き、大変嬉しく思っております。私も八十歳になりますが、まだまだ健康でこのように元気に過ごしております。お見かけしたところ、腰が曲がりかけて

私より年配に見える人もおりますので、私も先生というより仲間に加えていただけたらと思えます。皆さん達との思い出で記憶に残っているのは、教室に入った時煙草臭い匂いがしたので、この中に煙草を吸った者はおらんだろうなと言ったところ、先生何で俺の顔ばかり見るんだてば、とT君がとんがり顔をしたのが忘れられません。こうして幾つになっても教え子の人達に声をかけて戴けるのは有り難く、教師冥利につきます。これからも皆さん元気に過ごしましゅう」と挨拶され、伊佐修君より「母校新校舎視聴覚教室を見学したが、実に素晴らしい施設でした。関根君の挨拶にもありましたが平成十三年、母校百周年に我々同期の合同懇親会を企画する予定ですので、ご参加をよろしく願います。また本席に田辺先生よりお志と栗林君よりお酒のご寄贈がありましたのでご披露します」との報告が行われました。乾杯は栗林貞一君の発声と一言で「斎藤前会長よりぜひにと要請され、これまでお世話になった恩返しにと、この度東京青山同窓会会長を引き受けましたが、同期の会友の協力無くしては会長としての職責を全うすることはできませんので、ぜひご協力をお願い

致します。また乾杯に当たって私も十年程前に直腸ガンで手術を受けましたが、初期だったために完全に治癒し現在に至っており、健康に過ごせる有り難さをつくづく感じておりますので、皆さんの健康を祈念して乾杯したいと思います。どうぞ声高らかにご唱和願います」との前置きがあつて、全員声高らかにカンパイ。かくてようやく喉を潤した梅酒のうまかつたこと。うまかつたこと。開会から五分も待たされたんですから想像下さい。その間おとなしく我慢に徹していた五十九期生。やはり新潟県人は辛抱強いと中国産の私はしみじみと感心致した次第です。でもそれだけに懇親開始と同時に堰を切ったように会話が弾み、アルコールが回るにしたがつて、白髪、禿頭の老顔が五十年前の旧制新潟中学時代の幼顔を蘇らせ、気分まで若返ったかのように盛り上がりました。会の途中で抽選会が行われ、「越の寒梅」四合瓶十本でまたまた沸き返り、童心に戻って実に楽しく過ごすことが出来ました。最後に「玲瓏の天」を合唱し、飯塚君の一発締めで会を閉じましたが、名残は尽きずそれぞれ自室やロビーで語り合う風景も見られました。

致します。また乾杯に当たって私も十年程前に直腸ガンで手術を受けましたが、初期だったために完全に治癒し現在に至っており、健康に過ごせる有り難さをつくづく感じておりますので、皆さんの健康を祈念して乾杯したいと思います。どうぞ声高らかにご唱和願います」との前置きがあつて、全員声高らかにカンパイ。かくてようやく喉を潤した梅酒のうまかつたこと。うまかつたこと。開会から五分も待たされたんですから想像下さい。その間おとなしく我慢に徹していた五十九期生。やはり新潟県人は辛抱強いと中国産の私はしみじみと感心致した次第です。でもそれだけに懇親開始と同時に堰を切ったように会話が弾み、アルコールが回るにしたがつて、白髪、禿頭の老顔が五十年前の旧制新潟中学時代の幼顔を蘇らせ、気分まで若返ったかのように盛り上がりました。会の途中で抽選会が行われ、「越の寒梅」四合瓶十本でまたまた沸き返り、童心に戻って実に楽しく過ごすことが出来ました。最後に「玲瓏の天」を合唱し、飯塚君の一発締めで会を閉じましたが、名残は尽きずそれぞれ自室やロビーで語り合う風景も見られました。

翌朝は小鳥の囀りに目覚め、

予告

関西青山同窓会 (第三回目)

平成十一年十一月二十日(土)

午後六時開会
 会費 七、〇〇〇円(予定)
 会場 備後町オークビル 3Fホール

(大阪市中央区備後町3-6-14、地下鉄御堂筋線、本町駅より徒歩3分)

今年と同窓のご協力で、会場が変わり、少し会費が安くなる予定です。また前2回は金曜日開催でしたが、何かと慌ただしく、今年は土曜日に開催します。案内はこれまで出席の方には追って差し上げますが、案内漏れもあるかと存じます。関西在住の同窓に会のあることをお伝え下さい。詳しくは母校事務局 ☎ 025-266-5268 (FA X 同じ) にお問い合わせ下さい。10月に詳細が決まります。

青山OB会ゴルフコンペ

団体戦優勝は69期

75回勝又宣夫

同窓会恒例のゴルフコンペが、四月二十五日(日)新津カントリークラブで行なわれました。時折小雨の降る中、三十四人が参加。新潟市長の長谷川義明氏(61期)、衆議院議員の吉田六左エ門氏(66期)も参加し、春の一日を楽しんでいました。この度は、冬期対抗団体戦が復活。各期のベストネット三名

予告 82期生<昭和49年3月卒業>集まれ! 卒業25周年記念同期会開催

卒業20周年の同期会から早5年。お約束通り、25年目の記念同期会を開催します。開催当日は同期会の他に、新校舎での「思い出の授業」等の企画も準備中です。

6月始めに該当者に向けて案内状を発送しましたが、不明者、転居者等、連絡の行き届かない場合があります。同期生や、お知り合い同士で伝えていただき、声をかけ合っ

日時 8月12日(木) 午後7時~9時
会場 新潟グランドホテル
会費 8千円

※「思い出の授業」は新校舎の母校にて同日4時から開講
※実行委員長 八藤後茂樹
勤務先 TEL 025-246-4451

ときの人シリーズ

青山同窓生で、現在、話題の人にスポットをあてその活躍のようすをご紹介します。

おめでとう! ちばてつや賞大賞 佐藤純也さん(100期生)が受賞



過去、何人もの若手漫画家を世に送り出してきた講談社「ちばてつや賞」の35回大賞に新潟高校100期生、佐藤純也さん(25歳)の「Planet Football」が選ばれた。受賞間もない佐藤

「佐藤さん：以下(佐)」
自信というより、とてもいい感じで描けた作品です。構想の段階まで時間をかけましたが、ネーム(下書き)に入ってからスムーズでした。「これはイケルゾ」という手ごたえがあり

「佐藤さん：以下(佐)」
自分が伝えたいことは、かなり描き込めたと思っています。受賞作品はサッカーがテーマですが、佐藤さんの高校時代ってどんなでした? (佐)やっぱり一番夢中になつたのはサッカーです。どうしてもレギュラーの座を...という必死さはなかったけれど、暇さえあればサッカーをやっていた。あと学生街の食堂で一番お世話になったのは「やまさ」です。漫画のプロを目指したのはいつ頃から? (佐)大学に入ってから

ぜひご参加下さい。団体戦も継続する予定です。各期誘い合わせせて三名以上でぜひ。



お問い合わせは75期の富山修一氏までお気軽にどうぞ。



「自分が伝えたいことは、かなり描き込めたと思っています。受賞作品はサッカーがテーマですが、佐藤さんの高校時代ってどんなでした?」



「これらどんな作品を描きたい? 目標と課題を。」

(佐) 受賞といつても、まだやっ

と卵から嘴が覗いた程度で、課題は山積みなんです。とりあえず連載を一本持つこと。期限が限られた中で、自分がコンスタントにどの程度描けるのか楽しみです。『生』の人間を描くことで、自分の伝えたいものが、はっきり出ている作品を目指したい。

日報時代小説 7月からがおもしろい

青山同窓会監事 60回上杉雅之

辛口で定評の有名編集者から寄せられた評

「絵柄やストーリー展開はまだまだだか、彼しか持っていない『何か』に惹かれる。新進漫画家としては最高の50点をつけ。可能性はすごい。」

* * *

佐藤さんは現在、賞金を使ってヨーロッパを旅行中。「次回作を見据えるためにも、できるだけ長く自由に回りたいから、たぶん貧乏旅行。」と笑う。マンガ王国の新潟から、また一つ新しい星が輝きだした。(S)

「必死になって取り組めるものが見つかった?」

(佐) ええ。今までをふり返ると、一生懸命にやってきたことってなかった気がする。漫画は真剣にやりたいと思った初めてのものです。

* * *

漫画家のちばてつや氏の選評「作者のサッカー好きが伝わる

『新潟日報朝刊の連載小説は八日から新潟市出身の気鋭の時代小説作家、火坂雅志氏の「黒衣の宰相―小説・金地院崇伝」が始まります』六月二十七日付日報紙上の囲みの案内に一瞬目を疑った。

やや! 83回卒生、わが教え子三年七組の中川雅志ではないか。あれは確か約十年ほど前だった。彼の処女作と思われる「花月秘拳行」(講談社)を贈ってくれた。西行の知られざる一面を描

く伝奇物語だった。彼に刺激されたわけでもないが、いつのまにか藤沢周平に「はまっ」ていたのである。周平亡き後寄る辺を求めていた矢先、火坂雅志の登場である。彼は今春小学館から出した「全宗」(豊臣秀吉の知られざる名参謀、施楽院全宗せやくいん・ぜんそう)で「歴史時代小説に新風を巻き起こした」とのこと。日報での連載が楽しみである。当分は火坂雅志に「はまっ」そうである。

教育実習雑感

103回 小林 聡

私たちが実習生三十五名は久々に青陵の地に戻って参りました。とは云っても、あのシブイ校舎ではなく、洗練されたモダンな新校舎。しかし、そこに漂う氣質・空気は在学当時と殆ど変わっていませんでした。実習生活を重ねるにつれて、些か郷愁を覚えたのは過言ではありません。実習生として母校に戻ってきたことが、何か自分たちがイヨボヤ(村上地方で『鮭』の意)と似ているような気がしてなりません。清流で生まれ育ち、見たことがない海原へと下る。幾多の試練を乗り越え、数年の大洋の旅を経て、逞しくなった身体を携え再び、故郷の河へ戻っていく…。このような美談の通りに終われば実に良いのですが、現実はそのなかに甘くはありません。

雅志の「黒衣の宰相」をご愛読下さるよう願って止みません。ませんでした。

これまで生徒側の席に座っていた身分から一転して、教壇に上がり、授業を切り盛りする立場になるわけです。実際に教壇に立ってみると実習生誰もが授業を進める難しさに苛まれました。とても勇姿を晒すどころではありません。よって、教壇実習を終え、実習生が戻ってくる毎に、授業の惨劇話で控室が「愚痴り大会」の会場と化したことは言うまでもありません。

それぞれが指導計画を煮詰めていきました。これらを繰り返しながら実習を重ねる度に、不安から自信へ、自信から確信へと心境が変化していく自分がそこにありました。そして僅かながらも自分が脈々と成長していく様を感じる事ができました。

教科指導の他にもHR運営を任せられ、朝のSHRや放課後の掃除監督などを担当しました。また青陵祭が近かったこともあり、放課後になると各連合の活動に顔を出し、激励して回ることもありました。これらを通して多くの個性溢れる、輝きを持った在校生と関わる事ができ、逆に実習生側が若さを吸収した感さえありました。

振り返ってみると、辛い経験もしましたが、充実したひと時、二週間を過ごすことができました。今後の進路展開に悩み苦しむ、世知辛い生活を強いられる中で、この教育実習がどれだけ私たちに与えてくれたのか、代えがたいものになったのか。代えがたいものを手にすることができました。

あのような素晴らしい環境を与えて下さった先生方、在校生の皆さんに感謝せずにはいられません。実習生それぞれ、何らかの形でこの御恩を還元したいと考えております。

母校は今

今年度の入学生について、女子の数が男子を上回ったことについて書かなければいけない。在籍数からみた現象として確かに女子が一名多くなった。明確な理由が思いつかない。学校要覧でみると、平成九年、十年に比して男子の志願者が数十名減った。また、平成九年、十年ではほとんど男女間で違いない割合率が十一年度は普通科で女子の方が六〇程高くなっている。短絡的に結論付ければ女子に良い子が多かった。

で、校内にどういふ変化が起きたか、と問われると困る。軟弱になった、女々しくなった、喧しくなった、などなど。どれも当たっているし、どれもなにも今年始まったことじゃないし。そもそも女が増えたからこうなった、と悪くなったことをあげたらえは私が吊上げられることになる。これほどあからさまな差別はない。

校内が騒々しくなった。一言で言って幼稚になってきた、と言われ始めて久しい。毎年、今年の一年生は、とか、今の連中は、とか、私が赴任してきた頃はこんなじゃなかった、とか。

そしてその連中がそのまま、いわゆる難関大学を含めて、大学に進学していき、大学の先生を嘆かせ、教育実習にきては母校の先生をあきれさせ、社会に出ていっているのである。それでも、全体からみれば新潟高校なんてまじなほうだよ、となる。性差の問題だけを取り上げるわけにはいかない。

多くの人が指摘しているように、問題ありとすれば丈夫と青陵健児なのだ。例えば、今年の青陵祭の丈夫斉唱はよかった。私が日頃いう「四部合唱」にならずに一部半くらいで済んでいながら。主流は女声だった。四月の応援歌指導でも、女子はよくついてきている。先輩の指導が恐い、と親に訴えながら、それが嬉しいらしい。私のクラスの学級日誌には「〇〇(タレント)によく似た先輩に怒鳴られてうれしかった」などと。女声の丈夫はミスマッチか。

理想像としての青陵健児には、女性が含まれていないのか。同窓会総会のポスターをはっている私に三年生の女子が言った。「先生、私のポスターいやです。」中央に配された健児の像の写真が、一部誇張されて写っているという。今まで気が付かなかった視点である。芸術だぜ、といっておいたのだが。イチジ

クの葉かなにかを置くような配慮が必要になるのだろうか。(校内幹事 山田 栄)

職員の異動

(平成十一年四月)

全日制 退職 転出 転出先

教頭 坂井政行 中条高校長
教諭 齊藤繁夫 柏崎高小国分

赤野正明 新津高

鈴木純子 退職
尾関通郎 〃

武内均 新発田南高
岡村 真 巻高

佐々木睦夫 新発田高
山田 武 小出高

小池俊頭 村上高
常勤講師 打越賢郎 退職

井上真理子 〃
非常勤講師 石井芳典 退職

樋口志保 〃
通信制

教頭 横山邦夫 西川竹園高
教諭 鈴木捷雄 吉田養護学校

林 修吾 新発田高
〃 荻間貴志 五泉高

常勤講師 高橋貴子 退職
非常勤講師 笹川 秀 〃

事務 事務長 中野久男 退職
係長 増井スミエ 〃

主事 小林敬典 新潟テクノス

クルール
全日制 転入 転入先

教頭 渡辺 憲 新井高教頭
教諭 中戸義文 巻高

福嶋一勢子 新発田高
渡部多恵子 十日町高

山内雅人 新発田高
福原泰裕 村上高

猪俣 惇 白根高
五十嵐茂夫 高志高

坂井静雄 豊栄高
後藤純哉 長岡高

小林直子 新津高
非常勤講師 藤木隆男 新採用

渡辺和恵 〃
通信制

教頭 笠原正之 柏崎農業高
教諭 杉本秀紀 新潟北高

前川正昭 新潟向陽高
松月裕子 沼垂高

福田昂光 五泉高
事務

事務長 大山曉彦 新津地域福祉センター
係長 篠田正子 新発田南高

主査 大橋みどり 保健環境研究所

後輩の活躍

1 陸上競技部
男子総合8位

男子400H
1位 鳥倉康博

走り幅跳び
4位 藤田靖浩

三段跳び
5位 藤田靖浩

800M
5位 近藤 亮

以上 北信越大会出場
2 剣道部

男子団体3位
北信越大会出場

女子団体ベスト16
3 空手道部

男子団体形 3位
女子団体形 3位

個人形 3位 高橋実咲
以上 北信越大会出場

4 柔道部
男子団体予選リーグ 敗退

女子団体予選リーグ 敗退
個人 52kg級

2位 美濃川理矢子
北信越大会出場

5 フェンシング部
男子団体 1位

北信越・全国大会出場
フルール 3位 渡辺紀博

北信越大会出場
女子団体 2位

エペ 1位 滝沢由美
北信越・全国大会出場

6 ボート部
男子4+2位

北信越大会出場
男子総合 3位

7 山岳部
男子団体優秀校

北信越大会出場
8 バレーボール部

男子ベスト16
女子2回戦

9 バスケットボール部
男子3回戦

女子3回戦
10 ソフトテニス部

男子団体2回戦
個人 小野本・野沢 4回戦

小泉・井上 4回戦
女子団体1回戦

個人 加藤・清塚 2回戦
金子・後藤 2回戦

11 ラグビー部
3位

12 サッカー部
2回戦

13 卓球部
県大会出場権獲得ならず

14 バドミントン部
男子団体3回戦

女子団体2回戦
15 弓道部

男子団体決勝リーグ進出
女子団体予選リーグ敗退

16 テニス部

男子団体ベスト16
女子団体2回戦

準決勝 島倉康博
走り幅跳び

個人ベスト8 庄司有里

10位 藤田靖浩
三段跳び

現在大会期間中

6位 藤田靖浩
全国大会出場

文化部

800M 予選

1将棋同好会

近藤 亮

男子団体2位

2剣道部

女子団体1位

男子団体 予選リーグ3位

個人1位 高見野枝

決勝トーナメント進出ならず

2位 富所康子

3空手道部

以上 高文連全国大会・全国

男子団体形 5位

高校将棋選手権出場

女子団体形 4位

2囲碁部 男子団体1位

個人形

全国高校囲碁選手権出場

予選6位 高橋実咲

(月岡・内藤・九貫)

4柔道部

高文連全国大会

52kg 2位 美濃川理矢子

団体メンバー(月岡)

5フencing部

個人1位 内藤 亮

男子団体 3位

高文連全国大会・高校将棋選

個人 フルール

手権出場

ベスト8 渡辺紀博

3放送部

女子個人 エペ

団体 ラジオ番組第II部門

4位 滝沢由美

創作ドラマ・ラジオ

6ポート部

個人 水品慶美(朗読)

男子4十子選突破ならず

川上さやか

7山岳部

(アナウンス)

北信越出場 順位なし

以上 全国大会出場

北信越大会参加者

平成11年度新潟高等学校部活動

1水泳部

大会成績一覧表(北信越)

400M個人メドレー

1陸上競技部

白井江梨子

男子400H

ハイティーン水泳

新中・新高(29)

60回平田 大六

50 宿題放棄

高校二年生夏休み川島正先生の宿題は、英語のリーダーを何ページか読んでおくことだったと思う。夏休みがはじまった直後に一度ペラペラとめくってみて、ため息をついただけである。水泳の練習中に時々頭に浮かんで、そのたびに忘れようとしていた。

そして、一ヶ月放置。

二期期が始るので関川村から新潟へ帰った。

九月二十一日の名古屋での第五回国体出場までの間に、県内の大会を二つもこなさなければならぬ。

さらにそのうえ、一九四八年

来のサマータイムと、高校一年

からはじまった週五日制による

一日七時間のWパンチをうけた。

遅い放課後と土日は大黒善弥

(50回)監督によるハードトレー

ニングだ。サマータイムの夏の

日がなかなか暮れてはくれない。

英語のリーダーはどうとう読

まじまじだった。川島正先生

が、授業中にニコニコと近づい

てこられた。ヤバイ。この笑顔

がヤバイ。どうしました平田ア?

まだ笑っている。気持ち悪い、

のだからヤジ。なんです、やっ

てこなかったア。ここで雷魚急

変! 水泳をやりたに新潟高校へ

きてるのではない、という主旨

でネチネチと。本当の笑顔でな

かったのだ。接近一笑顔一説教

のプログラムが川島先生の体内

には常時組みこまれていたのだ。

51 私は大選手か

九月三日の新潟市水上競技選

手権大会は、四百、八百とも大

会新記録だったが、内容は、前

年の私の記録を改めただけだっ

た。

つづく九日ははじめて四市対

抗水上競技大会というのが長岡

の悠久山プールで開催された。

四市とは、新潟、長岡、柏崎、

高田のことで、私たちは、日ご

ろライバル同志の新潟商高と組

んで大黒監督の指揮下におさま

た。「都市対抗」と通称されて

いたが、国体選手の壮行会と選

考の敗者復活と兼ねられていた。

だからぶざまな記録は残せない。

ここで負けることはなかった。

その時の国体選手だけがうつつ

ているモノクロ写真が残ってい

る。そこには、左から、倉島玲

子(新潟中央2年)、小日山黎

子(同3年)、私、野崎愈(新

潟商3年)、諸橋勲(長岡工2

年)、竹内允(高田高3年)。小

日山さんは亡くなられたし、倉

島、藤木、諸橋、志賀、と現在

姓がかわっている。

ふりかえてみると、この年

は県内でのハツの大会、十六の

レースに出場し全部優勝した。

大会新九個、初回記録六個であ

る。つまり一年間無敗だったわ

けだ。

私は、皆が云ってられる大

(だい)選手になったのだろう

か。自問してみる。ただ大黒監

督にしたがっただけではないか。

私は、三年前の中学二、三年の

下積選手の頭を思い出していた。

いま県内では「長距離の平田」

になってしまった。現代のスポー

ツ選手のようにチャホヤされる

ことはなかったが、大会のプー

ルサイドでは、たくさんの視線

を感じるようになっていた。

しかし、新潟県の水泳のレベ

ルは低い。全国の記録をみても、

私より速い高校生は五十人位は

いるはずだ、と大黒監督は云わ

れている。名古屋国体が近づき、

トレーニングは日増しにきつく

なっていた。(つづく)

編集後記

☆沢山の寄稿に感謝します。

☆東京高検検事長の村山さん、

重責を担って、一層のご活躍を

と願っております。同期生から

の就任のお祝いと早速の答礼表

敬訪問、和やかにして友情厚い

六十三期ですね。

☆「バルカンの行方」松井大使

からの第二信。彼が影響を受け

たという池 政栄先生の世界史

の授業を思い出しました。難し

い地にあつて、更なる活躍を期

待しています。

☆池端さんの戦中戦後の貴重な

体験記、歴史の事実が若い人に

正しく伝わる事で新しい歴史が

作り出されて行くと感じました。

☆自衛隊高田駐屯地の中隊長高

橋さん、若い隊員とともに訓練

に励む日常を綴って戴きました。

☆野球部の大先輩清野さん、安

らかにお休み下さい。追悼記の

中に思い出とともに懐かしいお

名前。いつか甲子園で会いたい

ものですね。同窓会のみんなも

もそんな日を待っています。

☆クラス会は節目の同期会、常

連の同期会、そこには目立たぬ

が幹事のご苦労が。そしてそれ

に感謝する同期生。かくして健

在同期会。四十過ぎたら同期会。

☆東京を見習って、この秋関西

では三回目の同窓会。たくさん

参加して盛り上げて下さい。幹

事役は若手八十三回が買つて出

て来ています。(石)

平成十年度青山同窓会会費納入者追加分

(12月下旬より3月までに納入のもの)

納入先

(郵便振替口座 00650-7-4455 青山同窓会)

29回 北村太市
31回 金井五郎
35回 熊倉雄三
36回 今井二雄
37回 猪坂三郎
39回 鷺沢五郎
40回 阿部富衛
阿小渡 山賢信
41回 中村昌利
42回 田中正吾
43回 木村見尋
木渡 辺千
44回 佐々木勲麓
錦織登美夫
45回 小原稔武
小金澤
46回 高橋芳夫
高手 島恵昭
47回 杉山弘治
杉若 杉正
48回 斉藤純一
堀新造
49回 倉田資孝
倉旗 杏洲
50回 岩男仁志
木下廣左
熊敦木淳一郎
敦賀本恒男
山原明
51回 斎川正二
52回 大野潤豊
北坂井羽保也昭

藤田禮一
星野孝二
三井田彦
53回 飯島銈良
板津武夫
坂井隆造
鈴木常雄
中島栄次郎
野田利弘
平木和夫
福原昭
藤卷
54・55回 塩谷政実
高橋信次
千葉一雄
津野昌磨
中川昌彦
湯川
56回 指上宿叡
栗林宏昭
小嶋秩夫
近坂井宗二
島清野一
清田中孝
田中陽一
露山田幸
山田中紀
57回 藤村信洋
横山弘
58回 白井博
中波田野松弘重
59回 池田正文
岩永梯三
神城林榮作
小齐藤弘
佐志賀誠一
鈴長牧田兼
宮水沢邦

西野武
納谷喜郎
60回 曾富夫
安池端哲
河田鐵雄
高橋明男
高山正樹
山田誠
61回 阿部徳次郎
高橋均夫
田中宣勲
山本恭信
大野平敬
安石富士臣
石崎研也
遠藤琢也
小近鈴木美
鈴野栄一
堀辺弘
63回 浅野康一
五十嵐房義
市村哲勝
江原藤謙
斎佐白西川
長谷川田
山間
64回 牛木容三
大石正晃
笠原圓晃
青野建一
田川周迪夫
早松
65回 大島ヒ成
鎗居林幹
小捧福澄
早山崎

66回 小川博央
居城三郎
坪井清碩
山崎弘健
吉田郎
67回 石田瑞穂
金井邦紀
河崎ヒロ子
岸田興治
北場勝也
北倉島晴夫
高橋邦彦
高山宏仁
山口文夫
68回 小川克介
日向信光
須藤林八
斉藤藤正
斉藤忠雄
関徹辰
滝澤正紀
寺山代子
中浜川庄
広村山浩
森田浩二
69回 小佐藤昌二
菅沼芳樹
寺尾井晴美
永長
70回 小松修平
高高橋治夫
辻保三
中平義一
三原政勝
三渡允夫
渡辺麗子
71回 石橋達弥
今井清治
小佐藤礼
佐高中野洋
高広野悦
矢渡高橋
石田武

山本俊介
72回 荒川幸夫
石田井亮
泉藤敏武
斉橋俊嗣
高根布秀子
73回 岡村繁三
村島健三
田中塚テ子
手南波祐二
樋熊節子
74回 伊藤宏隆
上大島行雄
尾崎俊彦
小原富夫
小斉櫻正勝
鈴関憲一郎
関塚野一
戸枝善規
福田
75回 大野敏己
小小林正美
長井谷仁
松ケ井正道
藤嶺三富
富永川恵
吉川恵次
76回 加野裕資
齐藤橋由和
高松村山崎眞理子
77回 木口昭二
小池博実
杉崎野慎
清水古山義政
78回 大久保昌邦
大谷涼尚
大関福本和田健美
和池内悦子

伊藤毅
猪股裕紀
奥田信良
加藤真一
川合千尋
後藤藤龍男
佐藤中勝
田丸湯孝
山田宏一
平尾俊彦
80回 伊藤俊輔
小畑茂修
片山慶一
本間木紀子
鈴木
81回 相場剛
越野昌芳
武田正之
塚原明美
広前川洩博
82回 日下部朋子
福田林昭之
福中松田裕隆
83回 伊藤惠
加藤慎一
玉木下敬子
宮吉田裕之
84回 石田富美
大野哲茂
笠原野裕久
高野裕一
85回 稲田秀
高橋聡子
86回 及川朋子
大野直秀
鈴木本健
藤池真理
小山本
87回 石見鉄夫
齐藤今日亨
土屋永泰
德部幸之助
渡部
88回 北尾彰
田井朗洋